

川崎の「外国につながる子ども」の教育

2017年4月に川崎市の人口は150万人を超え、2017年12月末日現在の外国人市民登録者数は38,778人です。それに伴い、外国籍の子どもを含む「外国につながる子ども」も増加し続けています。「外国につながる子ども」の中には、日本語指導や学校生活への適応等の支援が必要な場合があり、全国的に国や自治体でもそれぞれ取り組みが行われています。2017年9月の調査によると、川崎市内の公立小中学校には日本語指導が必要な児童・生徒は451人在籍しています。

「外国につながる子ども」ってどんな子？

海外にルーツを持ち、多様な言葉、文化、慣習や価値観の中で育ってきた子どもたち。外国籍を持つ子どももいれば、保護者のどちらか一方が外国出身者の場合もある。最近では、日本生まれ日本育ちだが、家庭で両親の母語を使って育ち、日本語習得が十分にされないまま就学年齢を迎え、小学校に入学する子どもたちも増加している。また、中学生で来日する生徒も増えており、高校進学を含め本人が希望する進路を実現できないケースも多い。

「日本語指導等が必要」って？

日本語で日常会話が十分にできない場合や、日常会話ができていても学年相当の学習言語能力が不足し、学習活動への取り組みに支障が生じているとき。

川崎市内の「国際教室」と「日本語指導等協力者」

「国際教室」とは？ 文部科学省と連携した支援施策

日本語指導が必要な児童・生徒が校内に一定数在籍する学校には、国際教室を設置することができる。児童生徒は通常クラスに在籍しながら、別室で日本語の個別指導を行う「取り出し授業」や補足的な指導などによる適応指導や日本語指導を受ける。「国際教室」に通うかどうかは、校長や教員、保護者と本人との話し合いで決まる。平成29年度、川崎市には全部で23校（小学校:20、中学校:3）に設置されている。

「日本語指導等協力者」とは？ 川崎市教育委員会独自の取り組み

日本語指導等が必要な場合、川崎市総合教育センターより日本語指導等協力者（ボランティア）が市立小中学校に派遣される。基本的に児童生徒の母語が理解でき、子どもひとりにつき週2回各2時間、学校生活への適応サポートや日本語指導、また必要に応じて家庭連絡の通訳などを行う。支援期間は約1年。平成28年度の日本語指導等協力者の派遣件数は295件。

川崎市立さくら小学校 国際教室担当 田嶋 麻理子先生



さくら小学校の国際教室は開設4年目で、2017年度は20名程度の子どもたちがいます。個別指導で国語、算数、理科を指導することが多いですね。自信を持って在籍クラスの授業に参加できるように、内容を先取りした学習をします。

さくら小学校は、地域にある「ふれあい館・桜本こども文化センター」のスタッフ、日本語指導等協力者やALT（外国語指導助手）とも協力して、子どもたちとその保護者をサポートしています。「外国につながる子ども」の保護者も困っています。日本の小学校の制度や決まりがわからない、学校からの手紙がすべて日本語…さくら小学校では、すべての手紙をルビ付きで、大きな行事の時は英語版も出していますが、保護者もきちんとフォローしたいと思っています。

同じ市内に住んでいる「外国につながる」人たちとつながることはとても大切で面白い。やりがいがあります。

日本語指導等協力者歴23年 三宅 裕子さん



今までに12ヶ国の子どもたちに寄り添ってきました。なるべく早く担当した子どもが学校生活に慣れるように、私もクラスメートの名前を覚え、休み時間も一緒に遊んだりするようにしています。高校進学希望の中3対象に受験勉強の支援を行ったり、進路についても保護者と一緒に考えることもあります。ほかの日本語指導等協力者とは、勉強会を作って、サポートや指導の仕方を話し合ったり、オリジナルの資料を作ったりしています。

「外国につながる子どもたち」が困っている姿をみたら日本語でいいので話しかけてください。子どもの「(ぼく・私は)大丈夫。」を鵜呑みにしないで。来日した子どもは「なんで自分はここに連れてこられたの?」と苦しんでいることも多々あります。その子の気持ちを聞いてあげるだけでいいのです。

(取材・文：編集ボランティア 相沢明子)

相談・問合せ 海外帰国・外国人児童生徒の編入学・日本語指導・学校生活適応などに関する教育相談(事前予約)
教育委員会川崎市総合教育センターカリキュラムセンター
◆電話:044-844-3733(日本語のみ) ◆受付日時:月曜～金曜 午前9時～午後4時(祝日・年末年始除く)

川崎市国際交流協会・センターによる「外国につながる子ども・保護者」のための取り組み

1 小学校入学前説明会(1月開催)

日本の小学校に通った経験のない外国人保護者にとって、小学校の入学準備から学習、行事、生活、すべてがわからないことばかりです。説明会では「小学校での1日」のスライドショー、クイズ形式の制度や決まりに関する説明、子どもを日本の小学校に通学させたことのある「先輩ママ」からの話と質疑応答、教材や学校からのプリントの展示紹介を行っています。(多言語ガイドブック(11言語:英・中国・韓国・朝鮮・スペイン・ポルトガル・タガログ・ベトナム・タイ・ネパール・インドネシア・ルビつき日本語)、通訳つき)



2 給食試食会(12月開催)

日本の給食を食べたことがない外国出身の保護者には、日本の給食のことがよくわかりません。学校給食とはどんなものか、どのように作られているのか、栄養のバランスなど栄養士によるクイズ形式の説明の後、実際に配膳から体験してもらいながら給食を試食します。「かわさきそだち」の食材の紹介や、おはしの持ち方の練習も行います。(多言語ガイドブック(2言語:英・中国・ルビつき日本語)、通訳つき)



3 宿題支援(通年)

小学校高学年から中学生の外国につながる子どもたちを対象に、日曜午後に開催しています。基本的には子ども1人に対して、市民ボランティアのサポーターが1～2人。サポーターも子どもと一緒に宿題に取り組み、理解を深めながら子どもの心に寄り添い、日本での学校生活や高校受験を応援しています。また、サポーター対象の研修も行い、課題の1つであるサポーター確保にも力を入れています。*協力:多文化活動連絡協議会



4 高校進学ガイダンス(9月開催)

川崎市内の外国につながる高校進学希望者(中学生および既卒者)とその保護者を対象に、「在県外国人等特別募集」など、神奈川県下の公立高校の受験に関する説明や学校案内を行っています。県立市立高校の教師がそれぞれの高校のPRや説明をしたり、外国につながる「先輩高校生」が受験と入学後の体験談を話してくれます。(通訳つき)*共催:多文化活動連絡協議会・ME-Net(NPO法人多文化共生教育ネットワークかながわ)・神奈川県教育委員会



お知らせ 「小学校入学前説明会」と「給食試食会」の多言語ガイドブックは、川崎市国際交流センターのホームページからダウンロードできます。

*参考資料:「第4回川崎市外国につながる子どもの教育フォーラム」資料、川崎市国際教育研究会議 報告書「帰国・外国人児童生徒への日本語指導の工夫」、文部科学省HP、神奈川県HP、川崎市HP(文:川崎市国際交流協会・広報担当)

学習支援を必要としている方、学習支援ボランティアに興味がある方へ

川崎市内の「外国につながる子ども」のための学習支援団体(一部)

区	団体・活動名	対象	支援日・時間	連絡先
川崎	外国につながる小中学生学習支援・居場所づくり事業	川崎区内小中学生 (*中学既卒者相談受付)	水曜午後、土曜午前・午後 お問い合わせください	青丘社(ふれあい館) (044)276-4800 hara@seikyusha.com
幸	東小倉学習サポート教室	小・中学生	水曜 午後3時～5時	幸区役所生涯学習支援課 (044)541-3910
中原	日本語教室わかば	中学生 中学既卒者	日曜 午前10時～12時	日本語教室わかば nihongowakaba@gmail.com
	外国につながる子どもの宿題支援	小学5年～中学生	日曜 午後2時～4時	(公財)川崎市国際交流協会 (044)435-7000 kiankawasaki@kian.or.jp
麻生	あさお多文化サポートネット ひまわり	小学生・中学生	週1～2回	麻生区役所 地域まもり支援センター (044)965-5305